

研究成果

研究テーマ「金沢の旧制中学校が新制中学校に与えた影響について」

1 はじめに

昭和22年、学制改革により新制中学校が設立された。金沢市内にも多くの新制中学校が設立され、現在に至っている。

現在、金沢市立中学校は24校（うち、3校は小中併設校）ある。金沢の中学校は、24校中23校までが「校訓」を持っている。教師、地域住民が「校訓」という形で学校に対する思いを表現している。ところが、野田中学校だけは「生徒信条」という形で学校がめざす目標を表現している。

ここでは、同じ金沢市内の中学校であるにもかかわらず、校訓を持たず、まさにゼロからのスタートを切った新制中学校の代表として野田中学校に注目し、旧制高等小学校の伝統を持つ新制中学校とのちがいを、戦後の学校研究体制を比較する。そのことで、学校の特色にどのように影響しているのか考察してみる。

2 旧制高等小学校の流れを持つ中学校

（1）金沢市立小將町中学校

ア 歴史

- ・明治14年 3月 金沢区高等小学校として開学
20年 4月 高等科金沢小学校と改称
その後、移転・分離・統合がある。
- ・昭和11年 校訓 ～報恩・共同・勤労・自治・辛抱～
- ・昭和21年度に在学していた生徒は、高等科1年生は新制中学校2年に編入、高等科2年生は希望により新制中学校3年に編入か卒業になる。
（当時、小学校高等科の修学年限は2カ年）

イ 戦後の学校研究体制

- ・昭和43年 4月 「学習一般」に関する研究校に指定される。
44年11月 「主体性を育てる学習指導はいかにあるべきか」につき発表
- ・昭和47年 4月 市PTAより研究校に指定される。
11月 「教育に関する情報を適正に把握する学習」につき発表

（2）金沢市立鳴和中学校

ア 歴史（小坂尋常高等小学校）

- ・明治32年のデータ 尋常科（修業年限4年）…生徒数193名
高等科（修業年限4年）…生徒数 25名
- ・大正 7年のデータ 尋常科…生徒数333名
高等科…生徒数112名

イ 戦後の学校研究体制

- ・昭和23年 4月 石川県実験学校に指定
（社会科を中心としたコアカリキュラムの研究）

- ・ 28年 5月 金沢市指定研究校となる。（学習指導の研究）
- ・ 30年 11月 産業教育研究発表会
- ・ 33年 4月 金沢市実験学校（体育）の指定を受ける。
- ・ 36年 11月 市PTA指定研究発表会
- ・ 38年 10月 県指定英語研究発表会
- ・ 45年 10月 市教委指定学習意欲を高める研究発表会

3 旧制高等小学校の流れを持っていない新制中学校（野田中学校）

ア 歴史

- ・ 昭和24年 4月 十一屋町・菊川町・新堅町・富樫の4小学校校下を通学区域として金沢市立野田中学校を新設した。
（市中心部の古くからの商業地、郊外の農村地区、引き揚げ者が多い地区とかなり異質の地域が集まった校区）

イ 学校研究体制

- ・ 昭和30年 12月 文部省産業教育研究指定校になる。
- ・ 36年 4月 市教育委員会「学級活動のあり方とその指導」実験学校に指定
- ・ 43年 11月 市PTA指定研究「家庭教育」発表会を開く。
- ・ 44年 4月 文部省・県・市の「道德教育推進校」に指定される。
- ・ 45年 10月 文部省・県・市の指定「道德教育研究」発表会を開く。
- ・ 56年 10月 数学科指定研究「学習意欲を高める学習指導法」研究発表
市PTA指定研究「たくましい中学生の育成」研究発表

4 考察

- ・ 旧制高等小学校の流れを持つ中学校は、戦後の研究主題が「教科学習」が中心になっている。
- ・ 旧制高等小学校の流れを持っていない新制中学校は、「学級活動」「道德」など教科学習よりも領域的な研究が多い。
- ・ 野田中学校では、何もないところでの創立であったため、新たな校風づくりが必要であった。行政からの期待も当時必要であった領域の研究を指定した。
- ・ 現在になって、どちらも教育課程等の共通の研究体制が確立された。
- ・ 戦前からの歴史の有無により、戦後の研究体制に特色が見られた。そのことが現在の校風に影響していることは感覚的には感じられるが、本研究では明確にはできなかった。

5 参考文献

- ・ 嶋 耕二 「校訓分析による学校教育の目的と学校教育目標との関わりについての考察」
平成17年 12月
- ・ 石川県教育振興会 「戦後教育を草創した石川の教師たち」 平成12年 2月
- ・ 平成19年度学校管理運営計画
（金沢市立野田中学校、金沢市立小将町小学校、金沢市立鳴和中学校）